

- 74 羣盜穩やかに肩を差す
 75 魚袋出して釣を垂れ
 76 箒篋へいせいふなばた を叩くに換ふ
 77 貪婪どんらん 販米を興し
 78 行濫かうらん 官綿として貢す
 79 鮑肆ほうし 方に臭を遺し
 80 琴聲未だ絃を改めず
 已上の十句、習俗の移すべからざるを傷む

口語訳

- 73 (この地の人間は)人の殺生を自らの手で気軽に行い
 74 群盗も落ち着き払って我がもの顔に肩を並べて歩いてい
 75 京から下った官僚は中央の権勢をちらつかせながら地方の豪族を釣り上げてい
 76 都での牛車生活を船に乗る生活に換えてしま(『楚辞』の漁父が言うように)皆獨り水にとっぷりつか
 つているありさまである。
 77 (商人たちは)米の商売を始めて あくどく儲け
 78 また、にせものなのに良質の筑紫綿(絹)と偽って、官の綿として献上する。
 79 この地では、塩魚を売る店は大変な臭気を発しているし